

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:堀川淳子 所属:広島市立広島特別支援学校 記録日:2017年2月7日

キーワード:「読み書き障がい」「教科学習」「特別支援学校の地域支援」「在籍学校・放課後等デイサービスとの連携」

【対象児の情報】

- ・学年 中学2年
- ・障害名 読み書き障がい（ディスレクシア、ディスグラフィア） 自閉症スペクトラム（傾向あり）
- ・障害と困難の内容
 - 読みについては、読むことはできるが読解が難しい。情報量が増えると理解がさらに難しくなる。
 - 書きについては、時間がかかるが書き写しは丁寧にできる。配置を考えながらの書字は難しい。ノートテイクで書き取った内容は理解につながっていない。
 - 英語は、単語・文法ともに定着しにくい。苦手意識があるが「分かるようになりたい」との思いがある。
 - 授業中に分からないことがあると、固まることもある。
 - イラストや画像、音声などがあると理解の助けになる。一問一答形式や選択肢があれば答えやすい。

【活動目的】

（ア）当初のねらい

- ① 「読む」「書く」だけでなく「見る」「聞く」等の方法を使って、意欲的に学習に取り組む機会を増やす。（家庭学習を中心に）
- ② 自分に合う方法を使って学習することで、意欲のある英語や比較的取り組みやすい社会科などを中心に「わかる」という経験を増やす。

（イ）実施期間

平成27年6月30日～1月29日（月1回の教育相談として計7回の相談支援を実施。5月に1回、iPadに慣れるための支援を実施。）

（ウ）実施者 堀川淳子

（エ）実施者と対象児の関係 特別支援学校の教育相談担当

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- 授業にはまじめに取り組むが、学習内容の理解や提出課題が難しいことから、昨年9月から不登校傾向となる。今年の2月より本校での教育相談を開始する。
- 提出課題等の調節により、3月より部分的な登校ができるようになった。新年度になり、登校が安定してきた。
- 英語の授業に参加しているが、机に伏せるなどして学習活動に取り組むことは難しい。
- 家庭学習には取り組みにくい。週4回、放課後等デイサービスで活動している。

・活動の具体的内容

月1回60分の直接的な相談支援において、①1ヶ月間の取り組みや学校での学習内容についての報告、②アプリの操作の確認と練習、③次回までの学習課題の提示と取り組み方の確認 の3点を中心に行った。直接支援日以外も、SNS等を活用して適宜支援ができる環境を設定した。日々の学習が学校での学習活動とつながるように、定期的に学校等と連絡を図るようにした。

（1）直接支援について

【情報の入力】

- ① 「Bitsboard」→学校で学習している単元の英単語・意味・画像を入力し、カードを作る。



自作のカードや実施者が製作したカードを使って、「聞く」「見る」「選ぶ」「並べ替える」の方法でマッチング等のゲームを行う。

- ② 「Keynote」→英語：実施者が作成したファイルでアニメーション機能を使い、学年対応または既習の英語の重要語句や基本文型に触れる。



社会科：学習した重要項目をピックアップし、キーワード・その説明・関連画像をテンプレートに入力する。

【情報の出力】

- ① 「MetamojiNote」→英単語と意味のマッチング、基本構文と日本語訳のマッチング、ヒントを基にした単語の並べ替えを行う。



- ② 「日本史一問一答」→ヒントとして提示された文字を並べ替えて、歴史の問題に答える。



(3) 相談日以外の支援について

- ① 「ぼくらの交換日記」「ByTalk for School」→相談支援の連絡事項、学習に関する質問など連絡を取り合う。



- ② 「Metamojinote」→提示されたスケジュールやチェックリストに沿って試験勉強に取り組む。

(4) 関係機関との連携

- ① 在籍学校との連携

- 定期的な在籍校を訪問して本生徒の学習状況を伝えるとともに、本生徒に無理のない英語の学習課題を提案し、環境調整を進める。
- 社会科の重要箇所の確認など具体的な支援を提案し、家庭学習に反映できるようにする。

- ② 放課後等デイサービス事業所等との連携

- 放課後等デイサービスの事業所等を訪問して、活動内容や取組の様子について聞き取りを行い、在籍校・家庭・放課後等デイサービス・相談支援すべての足並みがそろえるようにする。
- 本生徒が取り組んでいるアプリや学習しやすい方法など、放課後デイで実施できそうな内容や方法に関する情報提供を行う。

・対象児の事後の変化

【情報の入力①】「Bitsboard」での英語学習

英単語の学習については、在籍学校での学習に参加することができるように、当該学年の教科書から単語を選び自分で入力してカードを作るようにした(図1)。書いて作る単語帳に比べて「作りやすく、覚えやすい。」との感想が聞かれ、新しいカードをコンスタントに作っていった(図2)。自作のカードを使ったマッチングのゲーム(図3、4)には自ら進んで取り組んでおり、単語をまとまりとしてとらえたり発音や意味を大まかにとらえたりすることができるようになった。単語を並べ替えて文を組み立てる学習については、直接支援の中で実施者の促しを受けて取り組むことができたが乗り気ではない様子であった。放課後デイ等で継続して取り組むことは難しかった。



図1

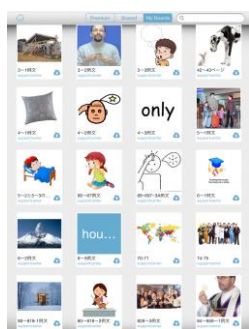


図2

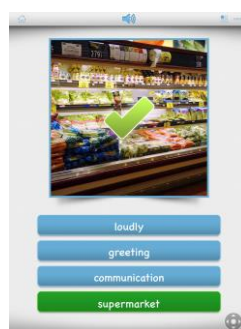


図3

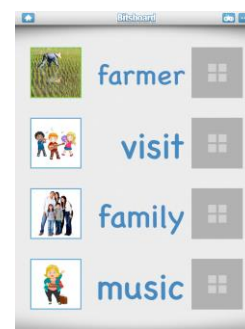


図4

【情報の入力②】「Keynote」での英文学習

学年で学習する内容のうち、本生徒が理解しやすそうな基本構文やテストの出題が予想されるものを4つ程度選び、英単語の選択や意味と正単語のマッチングを行った(図5)。「Bitsboard」の英文学習と同様に、直接支援の中では実施者の促しがあれば最後まで活動に取り組むことができた。限られた構文が出てくるため、ほぼ正しく解答していた。放課後デイ等では、継続して取り組むことが難しかった。



図5

【情報の入力③】「Keynote」での社会科学習

担任が社会科担当であったことから、在籍学校を訪問して「Keynote」を使った重要箇所のまとめ方を伝え、協力を依頼したところ、週1回程度、担任と本生徒が個別で学習する時間が設定されることになった。担任のアドバイスを得ながらテンプレート(図6)にキーワードと説明、関連画像を自分で入力することができた(図7)。SNSや直接相談の場面で「問題が出てそれに答えるようなアニメーションってできないのかって先生が言ってました。アニメーションの作り方を教えてください。」と質問するなど、積極的な様子が伺えた。それを受けてアニメーションの設定を一緒に確認し、本生徒から担任に使い方を教えるようにした(図8)。前期末テストの前の試験勉強として実施することができた。その後は学校行事が続いたこともあって継続は難しかった。

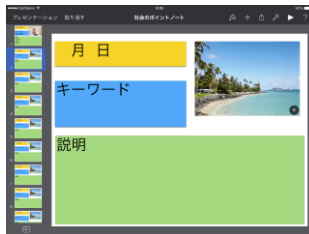


図6

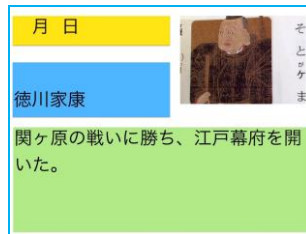


図7



図8

【情報の出力①】「MetamojiNote」での英語学習

「Bitsboard」や「Keynote」で取り上げた英単語・構文を取り上げ、⑦英単語と意味とのマッチング(図9)⑧選択による英文の日本語訳(図10)⑨並べ替えによる英作文(図11)に取り組むようにした。プリントで同様の問題を行ったときには、意欲が低下して最後まで集中力を保つことが難しかったが、この方法を使うと最後まで答えることができた。間違えたのは15問のうち⑨で1問のみであり、この結果を伝えると本生徒は驚くとともにうれしそうな表情を浮かべていた。その後、直接支援の場では促しを受けて課題に取り組んだが、15分程度学習すると疲れた表情になるなど負荷が高い様子であった。自分で学習できるように問題ファイルを作ってクラウドでの共有を実施しようとしたが、ファイルを開いたり実施したりしている形跡はなく、取り組みの意欲を持つことが難しかった。

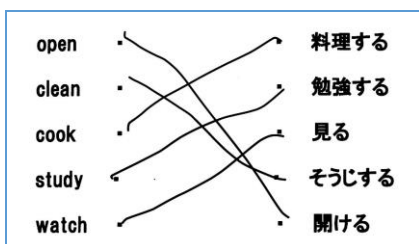


図9

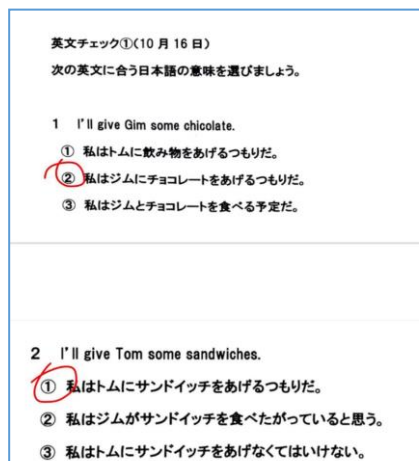


図10

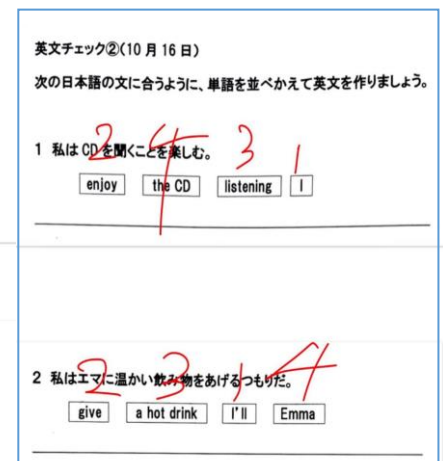


図11

【情報の出力②】「日本史一問一答」でのテスト勉強

提示されたヒントの文字を並べ替えて歴史の問題を解く学習は、まず直接支援でアプリの使い方に慣れておき、その後は放課後デイ等で取り組むようにした。限られた文字のヒントを並べ替えること（図12）から、抵抗感を持たずスムーズに行うことができ、1ターム20問をスピーディーにこなすことができた。予定以上のタームに自ら進むなど、自分から更に取り組もうとする様子が見られた。



図12



図13

放課後デイ等で試験前に集中的に取り組むことができただけでなく、試験終了後も指定された範囲（江戸前期・江戸中期）以上の問題を解くことができた（図13）。

【相談日以外の支援①】「ぼくらの交換日記」「ByTalk for School」でのやりとり

直接支援日以外にも学習について質問ができるように、SNSを使ってやりとりができるようにした。テストが終わった後に「テスト終わりました。」「疲れました。」と報告してきたり、担任と一緒にいる社会科学習のアプリが分からないときに「アプリどれですか?」「(社会の)ポイントがないです。」と尋ねてきたりした（図15）。日頃から交流ができるように、実施者からは世間話や連絡事項など日常的な話題をメッセージとして送るようにしたところ、数日内に必ず返信が来るようになった（図16）。しかし本生徒からの発信はあまり多くなかった。11月以降、登校意欲が持ちにくくなった頃からは実施者からのメッセージに対する返信が来ない状況となった。

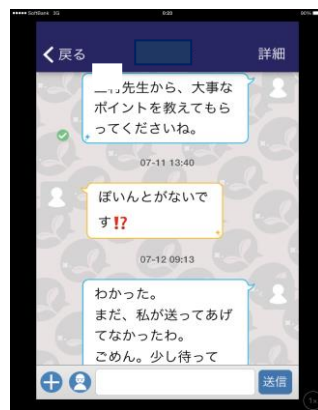


図15

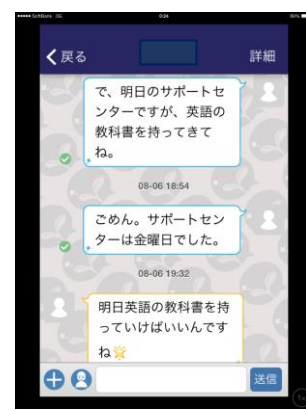


図16

【相談日以外の支援②】「MetamojiNote」での試験勉強チェックリスト

直接支援だけでなく定期テストにつながる学習ができるように、試験前や次回の相談支援日までの学習スケジュールをチェックリスト形式で作成し、クラウドでデータを同期させて進捗状況を確認できるようにした。社会科については「日本史一問一答」に順調にチェックがついており、スケジュール通りに指定された範囲を2回ずつ繰り返して取り組むことができた（図17）。英語についてはまったくチェックが付いておらず、取り組むことが難しい様子であった（図18）。



図17

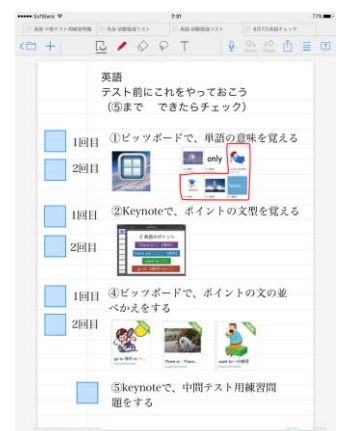


図18

【関係機関との連携①】在籍学校との連携

在籍学校を訪問し、学校生活での本生徒の様子を聞くとともに、校内研修で本生徒の特性を説明したり学習しやすい方法や取り組みやすい学習課題の例を伝えたりして情報交換を行った。直接相談で実施した

「MetamojiNote」での英文学習の結果を提示し方法を工夫すると学年の内容が理解できることを伝えたり、具体的な教材の例（図19）などの情報を提供したりした。何度も訪問して話し合い、英語の提出課題については「書く回数を減らす。」「視写の代わりに指定された文を何回か読む。」というように変更がなされた（図20）。社会科では、前述のように「Keynote」を使った重要語句の学習を提案したところ担任から協力が得られ、限られた期間ではあるが継続して取り組むことができた。

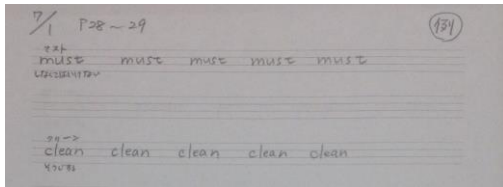


図19

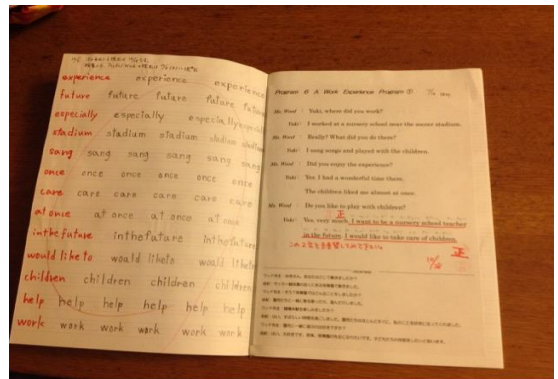


図20

【関係機関との連携②】放課後デイ等との連携

放課後デイにも訪問し、在籍学校と同様に本生徒が取り組みやすい方法や課題の例を伝えたり、本生徒が使っているアプリの操作方法を説明したりした。「選ぶ」「並べ替える」の方法を使った本生徒に合わせた活動や、「Bitsboard」「日本史一問一答」を使う時間が確保されるなど、本生徒が継続して取り組むことができる環境が整えられた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- (1) ゲームの要素があつて即時に反応が得られること、提示される情報量が少ないアプリや教材を使うこと、「見る」「選ぶ」「並べ替える」等の方法を使った内容であることなどの要素があると、継続して学習に取り組むことができた。
- (2) 「難しい」と感じられる内容や深い思考が必要な内容である場合、自発的かつ継続的な学習は難しかった。設定された学習の場（直接支援、個別学習）や支援者の存在、本生徒への負荷が少ない学習内容等の条件があれば、負荷の高い課題にも取り組むことができた。

・エビデンス(具体的数値など)

(1) 継続して学習できたもの

10月に家庭学習等の実施の有無とその感想についてアンケートを実施した。「BitsBoard」での英単語学習と「日本史一問一答」での復習について「できた」と回答していた。前者は「よくわかった」「テストに役立った」（図21）を選択した。これについては実際に放課後デイ等でコンスタントに取り組み、着実に自作のカードが増えていた。後者は「簡単だった」「ヒントがあつてよかった」（図22）を選択した。定期テストの社会科の回答を見てみると、学習した部分に関しては答えを記入できているものが多く、誤答であっても繰り返し解いていた問題を記憶して、自分なりの解答を記入していた。

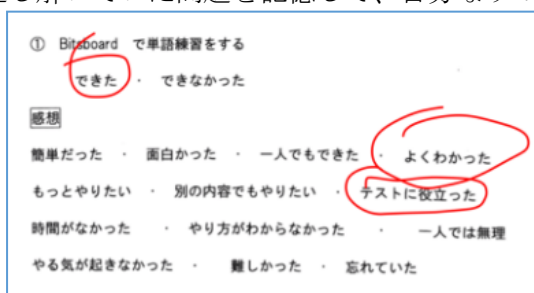


図21

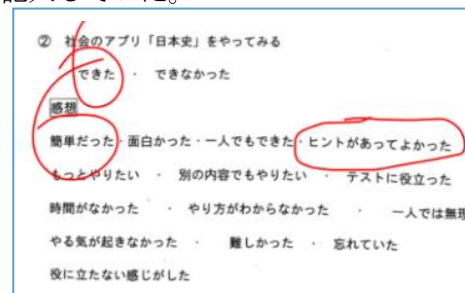


図22

(2) 継続が難しかったもの

その他の学習については「できなかった」を選択し、その理由として「忘れていた」等を選択していた（図

23)。しかし、これらは真意ではないととらえている。英文学習については英文に対する抵抗感や苦手意識があったこと、思考をすること自体が本生徒にとって高い負荷になったこと、問題を解けるが本生徒にとっては難しい内容であったことから意欲や自信を持ちにくかったことの3点から、社会科については先生と二人で行うことが前提である内容を設定していたことから、継続的な学習には至らなかったと考えられる。

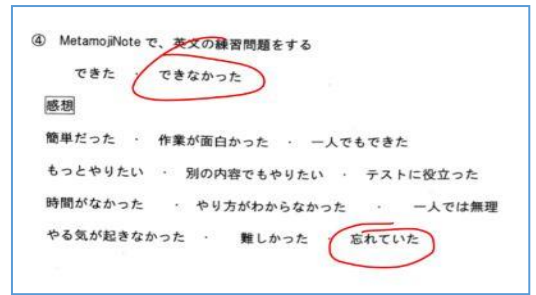


図 23

(3) 「やる気」に必要なもの

12月に行ったアンケートでは、学習にやる気が出るために必要なものとして「家以外で勉強する場所」「そばで教えてくれる人」を選択していた(図24)。现阶段では、学習のための時間や場所が確保されていて、本生徒に合う課題を程よい時間設定の中で先生と一緒に取り組むことができる環境が継続した学びに必要なことが分かった。

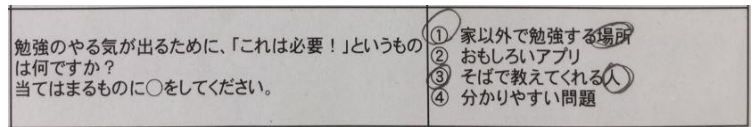


図 24

・ねらいの再考と内容の転換、今後の取組

11月頃より登校しにくくなり、現在は週3日放課後デイに通って短時間のみ活動している状況である。当初は学年相応の学習内容へ取り組むことにねらいを置いていたが、学年相応の学習では意欲的に取り組みにくいこと、本生徒に合う無理のない活動ができる放課後デイ以外での活動が難しい現状から、本生徒の活動意欲を高めることの必要性を痛感した。そこで、日々の生活の中で意欲を持ったり卒業後の生活につながったりすることをねらいとし、以下のように方向転換することにした。

(1) 直接支援の活動内容の見直し

教科的な学習を休止し、栽培活動に関心が高いことを生かして植物を育てることを提案した。SNSで返事が返ってくるだけでなく、直接支援の際にはインターネットを使って植物の植え付けの時期や種類を調べ(図25)、育ててみたい植物を選んでいった(図26)。実施者が栽培している椎茸を見せると、椎茸を使ったレシピを調べてSNSでスクリーンショットを送るなど、本生徒からの発信が見られるようになった。



図 25

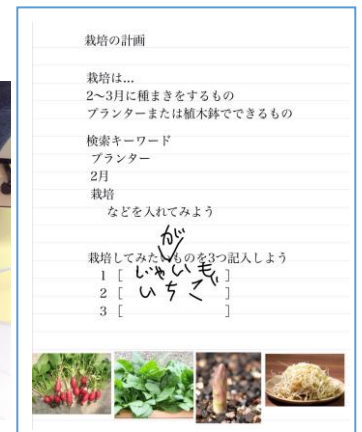


図 26

(2) 放課後デイの有効活用

現在、本生徒が唯一活動できているのが放課後デイである。事業所を訪問して現況について情報交換を行うと、iPadを使った活動がコンスタントに行われていることが分かった。本生徒が頑張っている様子を在籍学校に伝えるために、放課後デイで取り組んだことをiPadで撮影して実施者に送ってもらうように依頼したところ、快諾が得られた。SNSを通して本生徒からそれらの写真が送られてくるなど、少しずつ取り組みが進んでいる。

(3) 在籍学校との情報共有

現在学校には登校することができていないが、本生徒から送られてくる放課後デイで行った活動内容の画像を担当に転送して学習に取り組んでいる様子を伝え、本生徒への評価や働きかけのきっかけにってもらうなど、学校と本生徒をつないでいきたい。